

男性育休推進 で再考する

労働者の自律的な キャリア形成

キャリア形成

か」の葛藤は当時、世間を大いにぎわせた。仕事優先を求める声も高かった。育児休業の事例ではなかった。けれども、幼児期のみで子育て期間が終わるわけではないだけに、仕事生活と家族生活の間の調整という、避けて通ることでできない継続する課題を改めて世に問うた。日本に育児休業法が成立する3年前のことだった。

▼「仕事か家族か」の葛藤
1988年、日本プロ野球で2年連続三冠王など多くの記録を残したランディ・パース選手（阪神タイガース）はシーズンの中で、水頭症や脳腫瘍の疑いで手術する子に付き添うため、かなりの期間の帰国を望んだ。結局、球団側からの契約解除に至るが、「仕事優先か家族責任

か」の葛藤は当時、世間を大いにぎわせた。仕事優先を求める声も高かった。育児休業の事例ではなかった。けれども、幼児期のみで子育て期間が終わるわけではないだけに、仕事生活と家族生活の間の調整という、避けて通ることでできない継続する課題を改めて世に問うた。日本に育児休業法が成立する3年前のことだった。

▼「仕事か家族か」の葛藤
1988年、日本プロ野球で2年連続三冠王など多くの記録を残したランディ・パース選手（阪神タイガース）はシーズンの中で、水頭症や脳腫瘍の疑いで手術する子に付き添うため、かなりの期間の帰国を望んだ。結局、球団側からの契約解除に至るが、「仕事優先か家族責任

か」の葛藤は当時、世間を大いにぎわせた。仕事優先を求める声も高かった。育児休業の事例ではなかった。けれども、幼児期のみで子育て期間が終わるわけではないだけに、仕事生活と家族生活の間の調整という、避けて通ることでできない継続する課題を改めて世に問うた。日本に育児休業法が成立する3年前のことだった。

▼「仕事か家族か」の葛藤
1988年、日本プロ野球で2年連続三冠王など多くの記録を残したランディ・パース選手（阪神タイガース）はシーズンの中で、水頭症や脳腫瘍の疑いで手術する子に付き添うため、かなりの期間の帰国を望んだ。結局、球団側からの契約解除に至るが、「仕事優先か家族責任

名誉教授
法政大学
認定NPO法人
キャリアネットワーク
理事
康雄 諷訪



第7回 質的側面の改善

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内

取らせる「だけ」は悪手 家庭での戦力化も支援を

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内

「復職後の給与が下がりそう」が5人に1人くらいなどの結果だった。近年はどうか。妊娠中から出産後2カ月以内